



美術館とその周辺

An art museum and the outskirts

秋葉神社 ～秋葉三尺坊拝殿と奥の院～

美術館から坂を下ると、眼前に広がる秋葉公園内に秋葉神社があります。天文二十(1551)年、上杉謙信は常安寺の守護神として日本総本廟越後秋葉三尺坊大権現を勧請しました。秋葉神社は火防の神として全国に多くの神社や末社をもつ秋葉三尺坊威徳大権現を祀った神社で、その命日といわれる7月24日には毎年火祭りが開かれ、火渡りが行われます。



秋葉三尺坊拝殿



【奥の院と石川雲蝶】

西側に建つ秋葉三尺坊奥の院では、土台から破風に至るまで、石川雲蝶と熊谷源太郎が8年の歳月をかけたという彫刻が施されています。東側には烏天狗の酒宴、南側には大天狗の前で烏天狗と若武者が武術の試合を行っており、西側には烏天狗の敗北の図が表現されています。

<長岡市指定文化財>



ちょっと足をのばして・・

石川雲蝶の彫刻は、栃堀の巣守神社に隣接する貴渡(たかのり)神社でも見ることができます。養蚕の過程や、繭を煮て、機を織る光景など、袖ができるまでの一連の様子が表現されています。
<長岡市指定文化財>美術館から栃堀方面へ車で約15分。



9月には貴渡神社大祭が行われます。

雁木の町並み

栃尾の商店街は雁木造りといわれる雪国特有のたたずまいを残しています。町屋の庇を伸ばして柱で支えた雁木の下は、雪国の生活にはなくてはならない通路として、また憩いの場として親しまれてきました。特に除雪がままならなかった時代、町が雪にすっぽりと覆われると、このわずかな空間が通り道となり、向いの雁木どうしを雪のトンネルで繋いでいたのです。平成9年より、「雁木づくりプロジェクト」がスタートし、建築や街づくりを学ぶ学生たちと住民が協力し、雁木の町並みの再生を目指した活動が続けられています。栃尾表町ではこの活動によって、改築された雁木や屋号看板のデザインを楽しむことができます。また、各地には昔ながらの商店が点在しています。地酒、味噌、しょうゆ、お菓子、そして油揚げなど、栃尾ならではの味を探して歩いてみませんか。5月上旬には「とちお町めぐり雁木あいぼ」が開催され、出店や伝統技術体験などの催しが行われています。



栃尾城址への登り口も・・

町の中には、栃尾城址(鶴城山)への登り口となるふたつの神社があります。左は大手道と言われる「諏訪神社」(表町)の登り口。右は「石動神社」(表町)下手の登り口。その他、車では栃尾山田町から細い林道を登るルートがあり、本丸跡へ最短距離となる駐車場があります。

